

LIFE JOURNAL @HUS

北科大生のリアル×12学科

大学のありのままを知ってほしい！
じゃあ誰に話を聞こう？もちろん学生に決まってる。
勉強のこと、趣味のこと、暮らしのこと——。
飾らない言葉で語ってもらいました。
これを読んでいる高校生のみんなも、
自分の未来をちょっとだけ想像してみてほしい。
先輩方の力オを見る限り、
北科大で過ごす日々は、
きつといいものになりそうだ。



工学部 機械工学科

工学部
機械工学科 3年
池田 偉雄 TAKEKAZU IKEDA
(北海道札幌手稲高等学校出身)

周りのみんなから「マジメだね」と言われることが多いんですが、自分としては心配性なだけだと思います(笑)。普段から講義の予習をしたり、部活動の合間に勉強したり、かなり勉強はしている方なんじゃないかなと。成績が下がるのが怖いんですよね…(笑)。その分、YOSAKOIソーラン部は気楽に楽しもうと思っていました。でも、1年生のときの大会で結果を出せず、悔しい思いをしてから火がつきましたね。今は美術班として衣装デザインを担当しつつ、全力で取り組んでいます。大学で機械工学を選んだのは、小学生の頃に減速機などに使われる歯車を扱う父の会社を見学したのがきっかけ。当時はよくわかりませんでしたが、ものづくりへの関心は、なんと

なく持ち続けてきたような気がします。今は設計や強度計算、制御の分野に関心があり、研究を進めています。将来は大学院に進むか、そのまま就職するか、まだ迷い中ですね。目標を決めると、すべて完璧にやらないと気が済まないタイプなので、部活動の待ち時間にも参考書を開いたりして、「もう勉強なくていいんじゃない？」なんて言われることも(笑)。でも、自分としては少しでも不安を減らしたくて、つい取り組んでしまうんです。

YOSAKOIソーラン部では踊り子として活動しながら、美術班として衣装のデザインも担当する池田さん。「最初はいっとゆるく活動するつもりだったんですけど、なぜかスティックの方へ向かってしまうんです」

心配性ゆえにスティック。研究も部活動も全力投球。



大会が近づくと、平日だけでなく土日も練習が増え、スケジュールは一層忙しくなる。複数の演舞を並行して覚えることもあり、大変な場面も多い。「僕は今後も新しい作品に出演するので、バタバタしています」



薬学部 薬学科

ダンス、勉強、ダンス、勉強、医療ドラマ、な日常。

薬学部
薬学科 4年
吉田 紅彩 KUREA YOSHIDA
(北星学園女子高等学校出身)



アイドルグループのパフォーマンスを見たのがきっかけで、ダンスに目覚めました。8歳からずっとジャズダンスをやっています。今では、学校とダンスと、空いているところでバイトって感じの生活ですね。普段は週2〜3回の練習だけど、コンテストが近づくときにハードに。ダンスがあるから、勉強も頑張れる。「勉強を頑張ったご褒美にダンスができる」っていう感覚ですね。

母はICUの看護師、父は診療放射線技師。特に母から聞いたICUの薬剤師さんの話が印象的で、薬の知識を極めた人が現場を支えているって知って、かっこいいなって思ったんです。将来は病院薬剤師を考えています。社会人になっても、ダンスは続ける

つもりです。薬剤師の資格があれば働き方の選択肢も広がるので、仕事とダンス、どちらも楽しめる道を探したいですね。

テスト前は勉強漬けですし、正直大変なときはもちろんあります。でも、ここまできたらもうやめられないし、なんだかんだで楽しんでますね。勉強の合間には海外の医療ドラマを見て息抜きしたり。『レジデント』や『ドクターハウス』が特に好きで、勉強にもなるし、普通に面白くて、おすすめです。

吉田さんの自宅には、お父さんがDIYしてくれたダンス練習用の鏡付きのスペースが。今もジャズダンスを中心に大会やイベントなどにも出場。過去には海外での大会に参加したことも。



ジャズダンスはバレエを基にした動きが多く、体の柔軟性や、動きのしなやかさが重要となる。「元々体は硬かったけれど、ストレッチを続ければ柔らかくなります。やめると戻っちゃいますけどね」

保健医療学部 看護学科

全方位妥協なし、パーフェクト系看護女子。

保健医療学部
看護学科 3年
横野 杏 AN YOKONO
(市立札幌新川高等学校出身)



4歳の頃からダンス漬けの日々を送っていて、中学3年生のときには所属していたチームで世界大会に出場できて、そこで完全に燃えつきましたね。高校では全然違うことがしたい!と思い、弓道部に入学しました。静かに自分と向き合う競技で、ダンスとは真逆。集中力が鍛えられました。大学ではまたダンスに戻って、これまでの勝つためのダンスではなく、楽しむダンスを大事にしています。今は大学のダンス部に所属しつつ、学外でもインストラクターをしています。

アルバイトは、高校3年生から続いているお寿司屋さんと、年末年始限定で巫女さんの仕事。巫女のバイトは発寒神社で、高校生のときから続けていて、気づけばベテラン

に。神棚の飾り方や破魔矢の意味なども覚えて、参拝者からの質問に答えられるようになりました。

将来は、子どもに関わる仕事がしたいと思っています。生まれたばかりの小さな命を支える仕事って、本当に素敵だなと思っています。ダンスで知り合った医療従事者の方に、キャリアについてのアドバイスをいただいたり。ダンスからご縁が広がって、全部つながっているんだって感じますね。

旅行も趣味の一つで、去年は友人たちと沖縄や、ディズニーランドで満喫したそうで、バイトのモチベーションにもなっているみたい。「パーっと稼いで、パーっと旅行で使います」



彩りもステキなお弁当は、普段から自分で準備しているそう。忙しい日々の中でも、手を抜かないのが横野さんらしい。本人曰く「めっちゃめっちゃ食べます」とのこと。

保健医療学部 理学療法学科

格言に背中を押され、メンバーを引っ張るキャプテン。

保健医療学部
理学療法学科 3年
山内 天心 TENSIN YAMAUCHI
(北海道室蘭栄高等学校出身)

ダンスは、大学生活の中で一番熱を入れているもの。もともとダンス部は、コロナの影響で活動が制限されていた時期が長く、本格的に活動が再開したタイミングで入部し、今年から部長として活動しています。大会などで人前に出ることも多いのですが、実は結構人の目を気にするタイプで、新しいことに挑戦したくても、なかなか行動できない性格なんですよ。勇気が欲しいときや、励まされたいときは、偉人の格言や有名なスピーチの動画を見て、勝手に力をもらっています。TikTokとかでつつい見ちゃいますね。

両親が医療従事者だったこともあり、医療の道には自然と興味がありました。さらに、

自分自身のケガや、ダンスを通して体の動きに関心を持ったこともあり、理学療法士を目指すことを決めました。それに血や針が苦手なので、他の医療職よりも理学療法が合っているかなと(笑)。演習では、人間の身体の仕組みや動きを学ぶのが面白いですね。理学療法士になるには、まず国家資格が必須。勉強のギアを上げないといけないと、ちょっと焦りはじめていますね。そろそろやばい気がしてます(笑)。

学外ではダンスバトルやイベントにも出場。個人では本格的に挑戦しつつ、部活では「みんなが楽しめる環境」を模索中と語る。「どっちもやるのは大変ですけど、やっぱり楽しいですね」

アニメが好きで、そこからクレーンゲームにもハマったそう。山内さんの部屋の一角にはこれまでの戦利品が並ぶ。「好きなアニメは呪術廻戦、ヒロアカ、進撃の巨人、鬼滅……。めっちゃ見てますね」



保健医療学部 臨床工学科

アイス屋さんでは「コミュニケーションを、大学では臨床工学を勉強中。」

保健医療学部
臨床工学科 3年
菊地 萌乃 MOENO KIKUCHI
(札幌創成高等学校出身)

家族が運営するアイス屋さんでアルバイトをしています。それがなかなか楽しいんですよ。人と関わるのが好きなので、余計に楽しく感じるのかなって思います。接客では自分からお客さんに声をかけるように意識していて、例えば、お客さんが迷っている様子なら、おすすめを伝えたり、「次いらっしゃった時は、こちらもおすすめですよ」なんてご提案したり。実際にまた来店されて、ご提案したメニューを注文してくれたときは、すごく嬉しかったですね。他にも最近バイト先の店舗を移ったんですが、お客さんがわざわざ新しい店舗まで足を運んでくれたんです!感動しましたし、これから頑張ろう!って思いました。

この学科に入ったのは、祖父が呼吸器系の病気になった時に、臨床工学士という仕事を知ったのがきっかけ。将来は臨床工学士になるか、企業で知識を活かして働くか、どちらも魅力的で、まだ迷っています。臨床工学科は、医療系の中でも工学寄りの学科なので、理系科目が得意な人や、医療と工学の両方に興味がある人におすすめです。理系の知識があれば、意外と勉強も理解しやすいですよ。

菊地さんのマイブームはカレー巡り。ルーカレー、スープカレーどちらも好きとのこと。辛いものも甘いものも好きで、「何でも食べられます」と語る。写真はルーカレー専門店「円山教授」での1枚。



あいすの家 新発寒店でのバイトの合間にツーショット。一緒に映るのはお母さん。親子で同じ店で働いていて、お母さんの接客を参考にしているそう。ぜひ一度訪れてみて。

